

畜産試験場だより

養鶏試験場

◎昭和 35 年度集合検定

昨年 11 月 1 日から当場で、実施中でありました産卵能力集合検定は、去る 10 月 16 日に 350 日間の検定を終了しました。

その成績は表のとおりであります。本年度は白色レグホーン種の産卵は、平均して前年までの数値からみますと一段と向上がみられますが、兼用種の方は、あまり成績が振いませんでした。なお、350 日間の無休産鶏は単冠白色レグホーン種で 6 羽でありました。

◎昭和 36 年度集合検定

昭和 36 年度は鶏の産卵能力経済検定を開始していますので、施設の関係で前年度までの半分の 20 群の鶏について、去る 11 月 1 日から検定を始めました。その種類別内訳は白色レグホーン種 17 群、横斑プリマスロック種 2 群、ニューハンプシャー種 1 群であります。

本年度も相当数の検定要請がありましたが、優良鶏群について、とくに選択をおこないましたから、その成績を大いに期待しています。

◎経済能力検定用育成舎完成

36 年予算で建設中でありました経済能力検定舎が、一部の付属施設を残してほぼ完成しました。

この建物は、約 114 平方メートルで、約 50 日令から大雛期間中飼育できる 2 段式群飼ケージ、20 基（1 基 75 cm×180 cm）を収容するもので、当场東端の圃場の中に建設いたしました。

◎試験研究

農林省農業技術研究所、農林省種畜牧場、および当場の共同研究で、ブロイラー飼料に関する研究を開始しました。この研究は、ブロイラー飼料について、日本での飼育条件で、しかも、日本の飼料に適合する飼養標準を設定するためにおこなうもので、9 月 26 日から 12 月 20 日まで、12 週間にわたり、正交配ロックホーン 500

羽を使用して、5 種類の飼料について実施するものです。

第 1 表 検定開始羽数、終了羽数

種 類	検定開始羽数	へい死羽数	検定終了羽数
単冠白色レグホーン種	330羽	26羽	304羽
横斑プリマスロック種	50	5	45
ニューハンプシャー種	10	1	9
計	390	32	358

第 2 表 産卵階級別羽数（へい死鶏を含む）

種 類	300 卵以上	299 卵 ~ 250 卵	249 卵 ~ 200 卵	199 卵以下
単冠白色レグホーン種	139 (35.6)	121 (31.0)	38 (9.7)	29 (7.4)
横斑プリマスロック種	8 (2.1)	19 (4.9)	13 (3.3)	13 (3.3)
ニューハンプシャー種	3 (0.8)	3 (0.8)	3 (0.8)	1 (0.3)
計	150 (39.5)	143 (36.7)	54 (13.8)	43 (11.0)

注 () 内は検定開始羽数にたいする%

第 3 表 無休産鶏の成績

順位	検定番号	種 類	産卵個数	産卵重量	出品者住所氏名
1	60—91	単冠白色レグホーン種	350	21,126.0 ^g	邑久郡邑久町 三宅節太
2	" 40	"	"	19,979.0	井原市 高屋 土肥恭介
3	" 115	"	"	18,847.5	倉敷市船倉町 水野大二
4	" 126	"	"	18,534.0	総社市 赤浜 寺島篤政
5	" 268	"	"	18,495.5	苫田郡鏡野町 久光和夫
6	" 199	"	"	18,298.5	" " 石田豪士

注 順位は産卵重量による

第 4 表 群 の 成 績

検定番号	種 類	1羽平均産卵個数	1羽平均産卵重量	出品者住所氏名	備 考
60 51~60	単冠白色レグホーン種	311.5	16,891.25 ^g	総社市 窪木 河田郁雄	産卵個数 1位
271~280	"	308.1	16,721.30	苫田郡鏡野町 石田 健	" 2位
1~10	"	298.9	17,134.35	笠岡市 園井 三好 茂	産卵重量 1位
141~150	"	298.5	17,125.50	都窪郡 庄村 内田和夫	" 2位